

事業概要説明シート

事務事業番号 30638

事務事業名	枚方宿歴史の景観保全地区修景助成事業		
事業開始年度	平成14年度	担当部署	都市整備推進室

根拠法令	決裁（歴史的景観の保全等に係る助成金交付要綱）
実施方法	☒ 直営 ☐ 委託又は指定管理（委託先又は指定管理者： ） ☐ その他（ ）
目 的 （何のために）	歴史的景観地区において、地区住民の自主的なまちづくりを促しつつ理解を得ながら、歴史を生かし、商業や文化の息づいたまちづくりをめざすことにより、市民のふるさと意識や郷土愛を醸成する。
対 象 （誰・何を対象に）	枚方宿地区内の建物所有者 （歴史的建造物や歴史的景観を保全または修景整備をするもの）
事業内容	歴史的な街並み景観の保全のため街道沿いに残された貴重な町家の保全や、一般の建物の歴史的な修景について建物所有者等と調整を行い、助成金を交付する。 （補助の上限額） ・歴史的景観建造物 500万円 ・一般建築物 300万円
類似事業	町家情報バンク支援助成事業
事業の必要性	枚方宿地区を本市の代表的な地域資源と位置付け、その魅力を一層高めるためにも歴史的建造物や歴史的景観の保全・整備を進めていくことが重要である。

コ ス ト													
		H22年度決算				H23年度決算				H24年度当初予算			
		従事職員数		概算人件費		従事職員数		概算人件費		従事職員数		概算人件費	
	正職員	0.41	人	3,327	千円	0.40	人	3,236	千円	0.55	人	4,400	千円
	再任用職員		人	0	千円		人	0	千円		人	0	千円
	非常勤職員等		人		千円		人		千円		人		千円
	人件費計(A)	3,327			千円	3,236			千円	4,400			千円
直接経費(B)		9,000			千円	9,701			千円	4,210			千円
総事業費(A+B)		12,327			千円	12,937			千円	8,610			千円

財源内訳						
	H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
国庫支出金	4500	千円	4,050	千円	2,105	千円
府支出金		千円		千円		千円
受益者負担 (使用料等)		千円		千円		千円
その他		千円		千円		千円
一般財源	7,827	千円	8,887	千円	6,505	千円

	内 容	金 額
平成23年度 事業費の主な内訳 (人件費除く)	歴史的景観の保全等に係る助成金交付【上田ギャラリー】(補助金805)	805 千円
	歴史的景観の保全等に係る助成金交付【菊井邸】(補助金5,000)	5,000 千円
	歴史的景観の保全等に係る助成金交付【ゴロイチカイカン】(補助金955)	955 千円
	歴史的景観の保全等に係る助成金交付【鍵屋別館】(補助金2,941)	2,941 千円

事務事業名	枚方宿歴史的景観保全地区修景助成事業		
事業開始年度	平成14年度	担当部署	都市整備推進室

	活動指標もしくは成果指標	単位	H22年度	H23年度	H24年度(見込み)
活動実績	① 町家の保全や歴史的修景助成件数	件	3	4	2
	②				
	③				
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	① 総事業費 / 助成件数	千円	4,143	3,251	4,314
	②				
	③				
成果目標 (目標とする成果)	枚方宿地区においては、宿場町の面影を色濃く残す街道沿い(歴史的環境整備ゾーン)において修景を重点的に進めることにより、その街なみを際立たせるとともに、後背地(歴史的環境整備ゾーン以外)においても修景を行い、本地区全体の歴史的景観の形成を図る。 このため、本地区全域に「枚方市歴史的景観の保全等に係る補助金交付要綱」を適用し、本地区の伝統的な町家を保全するとともに、その他の住宅等の修景整備を行う。(年間3件程度を予定し、予算計上)				
比較参考値 (他自治体での事業の例など)	本市のように国の補助制度である「街なみ環境整備事業」を活用し、住民団体と連携しながら町家の修景助成に取り組んできた市町村には、大阪市、富田林市、岸和田市などがある。				
特記事項	本修景助成事業は、平成13年(2001)6月に国土交通大臣の承認を受けた街なみ環境整備事業の事業計画に定められ、14年度より事業実施している。平成23年度から社会資本整備総合交付金制度への移行に伴い、本修景助成事業を基幹事業と位置付けした。 類似事業との1本化について、本修景助成事業は国の補助制度を活用して街なみの保全整備の観点から長期的な視点で実施する事業であり既に体系化していることから、短期中期的な町家情報バンク支援助成事業と1本化することは困難である。 本事業により、10年間(H14～H23)で町家保全や修景家屋が29件確保できた。町家が散在する街道沿いで歴史的な街なみの連続性を確保するための有効な事業と言える。				
一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	改善	助成範囲の拡大について検討を行う。(街道沿いから枚方宿全域に助成範囲を拡大)			
一次評価結果	・これまでの効果検証と今後の取り組みの方向性、公費投入のあり方について検証が必要では ・何に対しの助成か、明確化を図る必要があるのでは ・他事業も関連しており、体制の見直しを図り、人件費を削減できるのでは(30637～30640) ・助成事業としてのあり方の検討の必要性があるのでは				
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	改善	平成24年6月に、大阪府の景観計画の変更に伴い枚方宿地区が重点地区として指定された。今後、規制誘導だけでなく補助制度を有効に活用することで、より歴史的まちなみのイメージが地区全体に広がりをもって築くことができる。 本修景助成事業及び町家情報バンク支援助成事業並びに都市景観形成事業の事務内容について、区分分けが不明瞭なところがある。関連性が高いため区分けしにくい点もあるが明確化したい。→従事職員数の見直し			